

コラム 62ー 南部仏印に進駐する必要性

日本が南部仏印に進駐する必要性の理由は、次の5点でした。

- 1 シナ事変解決のため、重慶と米英蘭の提携を南方において分断すること、
- 2 米英蘭の南方諸地域における戦備の拡大と対日包囲陣の結成、
- 3 対日経済圧迫の加重、
- 4 米英の策動による仏印・タイの敵性化、
- 5 日蘭会商の決裂等の諸事情

特に、対日包囲陣構成上、仏印は重要地域であり、いつ米英側から仏印進駐が行われるかも知れず、日本はこれに対して自衛措置を講ずる必要がありました。当時、仏印の本国たるフランスはドイツに降伏し、フランスの2つの政権のうち、ドゴール政権は英国にありましたから、ドゴールが仏印の管理を、英米に依頼する可能性が十分にありました。経済圧迫に耐えかねた資源なき日本が、自存自衛の手段である戦略物資の供給地たる仏印が敵の手に陥る前に、これを確保する行動に出たとしても、当時の国際通念上、自衛措置の限度を逸脱するものではありませんでした。